

第4回東彼杵町小中一貫教育
導入検討委員会会議録
(先進地視察研修報告)

東彼杵町教育委員会
令和6年11月18日

I 出 発 令和6年11月18日(月) 午前8時00分

II 帰 着 令和6年11月18日(月) 午後6時00分

III 参加委員 富永 裕子委員、毛利 政俊委員、長島 大輔委員、高原 郁美委員、吉永 信一郎委員、
正尾 敏委員、岩崎 生大委員、滝川 恵委員、山口 厚委員、岡田 半二郎委員、
岩永 純代委員、松山 幸一郎委員

IV 事務局 三根 幸博学校教育係係長、岩川 克行小中一貫教育導入検討事務局
※本岡 博満研修員…オブザーバー参加(記録担当)

V 東彼杵町小中一貫教育導入検討に関する先進地視察研修報告

1. 視察目的

- ・本年2月に発足した東彼杵町小中一貫教育導入検討委員会における導入検討に係る審議に資するため、小中一貫教育制度を導入し、先進的な取組を推進する市町村を視察する。
- ・東彼杵小中一貫教育導入検討委員会において、東彼杵町立学校教育の将来あるべき姿を展望し、小中一貫教育制度導入の是非の判断のための参考とすることを目的とする。

2. 視察先について

福岡県宗像市

- ・人口 96,732 人、世帯数 45,115 世帯
- ・平成18 年度 小中一貫教育の調査研究開始。平成20 年度 小中一貫教育を以下の3つのタイプに分類。

タイプ	施設	教育内容(教育指導計画書)	分掌組織	研究校
小中一貫 A 型	一体	中学校区の教育目標を統一し、教育指導計画書も合冊となっている。	統一	大島中学校区
小中一貫 B 型	分離	中学校区の教育目標を統一し、※教育指導計画書も合冊となっている。	統一	日の里中学校区
小中一貫 C 型	分離	中学校区で設定した共通目標の達成に向けて、教育指導計画書に記載する教科・領域もしくは機能教育等の計画の一部が一貫している。	一部統一	未実施

※教育指導計画書…教育目標の達成に向けて示す、共通した教科・機能教育の9か年の推進計画。校務分掌組織、行内研修計画、特別活動年間指導計画など。

- ・学園の運営方針やめざす子ども像を共有し、目標達成に向けて「学園」「地域」「家庭」それぞれが役割を考え、果たすことで子どもの健やかな成長を促す、小中一貫のコミュニティ・スクールを運営。
→「学園」「地域」「家庭」がお互いの目標、課題等を協議・共有することにより、三者それぞれの活動や連携した活動(地域学校協働活動)がより充実したり、新たな取組につながったりすることも期待。
- ・宗像市には7つの「学園」がある。各中学校区内の小学校及び中学校を一つの「学園」とし、義務教育 9年間の前期(1～4年)中期(5～7年)後期(8、9年)に区分して、発達段階に応じた学びを進めている。
- ・学園の教育目標及び重点目標は、学園運営協議会での協議の上、設定。その達成に向けた教育課程を編成し、すべての職員が9年間の見通しに基づいた教育課程の実施、評価を行う。
- ・中学校教員による小学校での授業、小小、小中合同の活動などを通じて、同じ中学に進学する子ども同士をつなげたり、進学への安心感を深めたりする。教職員同士も日ごろから交流し、子どもの様子をお互いに共有、相談できる体制。

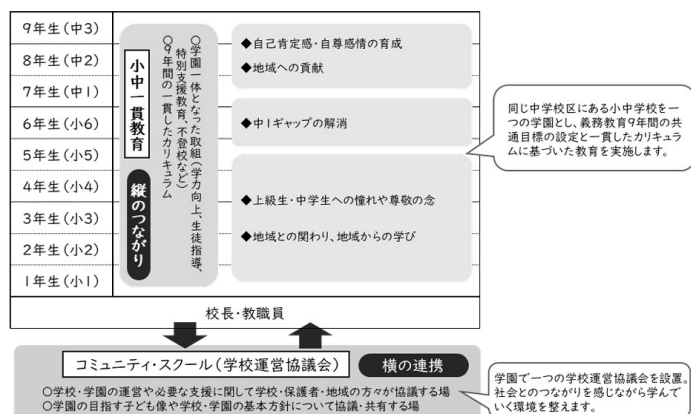
3. 視察報告

○開会行事

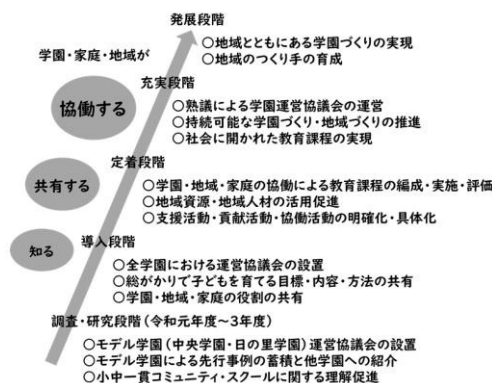
宗像市教育長あいさつ

- ・平成21年に全国サミット開催地。平成27年に第二期スタート。
- ・世界遺産を核として、ふるさと学習もスタート
- ・令和元年度から、中学校区を一つの「学園」とした小中一貫コミュニティ・スクールをスタート。
- ・今年度、大島学園「ふるさと学習」、かとう学園「キャリア教育」に関する小中一貫教育の研究発表。
- ・宗像こども大学。約40の事業所が、子どもたちの「本物から学ぶキャリア教育」に協力。

◇小中一貫コミュニティ・スクールのイメージ



◇小中一貫コミュニティ・スクールの推進計画



【宗像市学校教育基本計画 後期計画(令和3年度～令和6年度)より】

○説明

宗像市小中一貫コミュニティ・スクールの歩み…宗像市教育委員会

小中一貫教育(第一期・第二期)の歩み

- ・宗像市には現在7つの学園がある。一つの中学校区に2～3の小学校
- ・平成18年～平成26年 第一期 平成27年～第2期
- ・第一期は平成18年度スタート。中1ギャップ、学習意欲の低下への対応を目指して。
- ・利点
 - 9年間にわたり、児童生徒を継続的にみとることができる。計画的、継続的に指導できる。異年齢集団の指導で多様な学びの実現。
- ・小中一貫教育の類型化
 - 施設一体型の【A型】、施設分離型の【B型・C型】。児童生徒の実態、教職員や保護者、地域の願いを基に選択。
- ・小中一貫教育の推進に向けて
 - ① 組織体制づくり 導入時にここに特に力を入れた。
 - 小学校と中学校を「つなぐ」ために、学園の方針を定める校務会議等の実施。
 - ② 指導方法の一環
 - 学習規律や学び方、指導方法の一環。小小間や小中間で学習規律や学び方を「そろえる」ことで、不安や悩み等を解消。

・第二期は平成27年度スタート！基本方針に【学習規律や学習態度の向上を基盤に「自立しかかわりを深める子ども」の姿】を求める。キーワード「自立」「かかわり」。

表1 「自立」と「かかわり」を視点として身につけさせたい力の具体

視点	前期 小1～小4	中期 小5～中1	後期 中2～中3
【自立】 <u>自立した学び方で</u> ・全国学力・学習状況調査の全国平均正答率に対し5ポイント以上	・学習規律の定着と向上 ・考え方や調べ方等学習の仕方が分かり、自分でできる	・考え方、調べ方等学習の仕方をうまく使って課題を克服していく	・自己目標や課題を生み出し、自分の力を高めながら粘り強く克服していく
【かかわり】 <u>良好な人間関係で</u> ・学校生活満足度90%以上	・学び合うことを楽しむ ・学び合う活動で自己や他者のよさに気づく ・自尊感情の高まり	・学び合いを深める ・学び合う活動を工夫、改善して自己や他者のよさに気づく	・学び合いを深め、広げる ・学び合う活動の工夫、改善を一層進め、自己や他者のよさに気づく

・小中一貫教育の拡充

→学園ごとの特色化(地域や社会の担い手として特色ある教育課程の創造)

→学校・家庭地域の連携(子どもたちが地域行事に参加、貢献する等の取組の充実)

・沖ノ島と関連遺跡群が世界遺産に認定→そこを核としたふるさと学習の実施

まとめ

	主に取り組んだ内容	主な成果
第Ⅰ期	○学習規律・学習態度・学力の定着○ 各中学校区の指導方法の一貫 ○小中一貫教育推進に向けた組織体制の確立	○7年生の不登校生徒数の減少 ○小学校から中学校にかけての学力の向上
第Ⅱ期	○学校・家庭・地域の連携による小中一貫教育の充実○ 学園ごとの小中一貫教育の特色化	○地域への愛着や関心の高まり ○自己肯定感の高まり

第一期

(1)共通の目標設定と組織的運営

(2)教育課程の適正な編成・実施・評価

(3)研修や会議などの効果的推進

(4)指導方法・指導体制・評価方法などの教育指導の充実

(5)特別活動などにおける交流学习の充実

(6)生徒指導上の課題への適切な対応

(7)家庭・地域コミュニティとの連携

※兼務教員や時制の統一なども明記

第二期

(8)保育所・幼稚園との連携

(9)福岡教育大学との連携

(10)評価

2つの具体例

① 小中交流活動

→小中学生が同じ時間を共有。下級生への思いやり。上級生へのあこがれ・感謝。

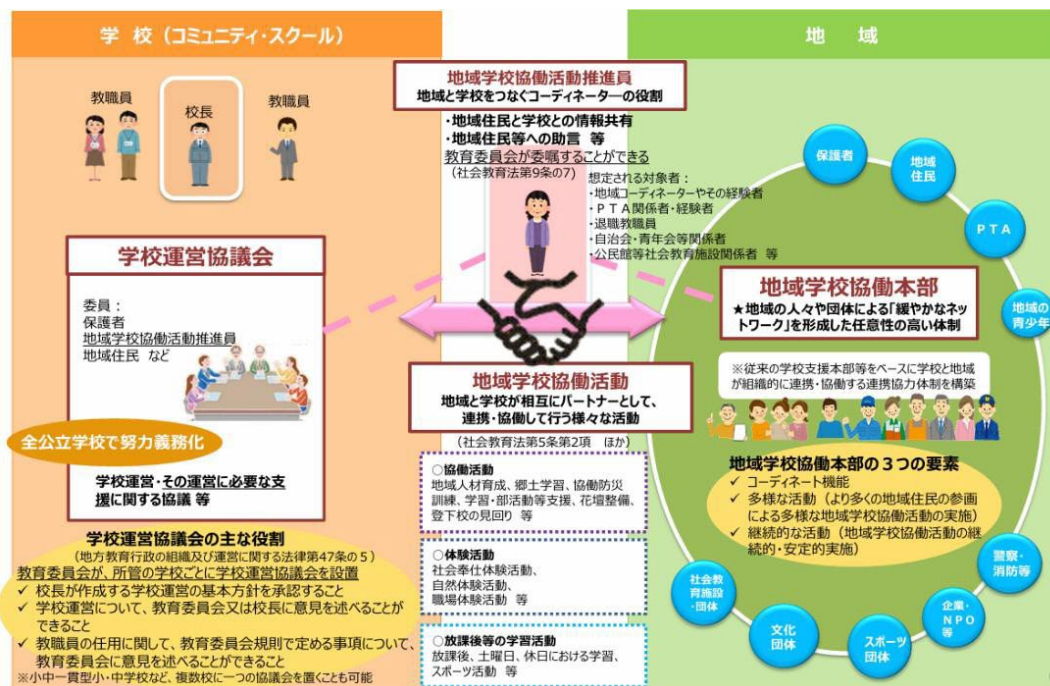
→遠足など、中学生が小学生にやさしく接する場面がみられるなど、良い効果。

② 小小交流活動

→修学旅行や宿泊学習を合同で。

小中一貫コミュニティ・スクールについて

・令和4年度から市内すべてで小中一貫コミュニティ・スクールの実施。定着期から充実期への移行期間



【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について(制度編) 文科省

・学園(学校)運営協議会が目指す方向を定め、コントロールする前輪の役割。地域学校協働活動(本部)が馬力、機動力、駆動力、持続力を生む後輪の役割。その間を繋ぐのが地域学校協働推進員。宗像市の場合、学校運営協議会と地域学校協働推進員の間に、ハブとして「学園コーディネーター」が存在する。

○学園コーディネーターの役割について…日の里学園コーディネーター

日の里学園小中一貫コミュニティ・スクールのあゆみ

- ・施設分離型(2小1中)
- ・第一期は、目指す子ども像の設定や交流活動の実施(子ども同士、教師同士、子どもも教師も全員)
- ・施設分離型の場合実体のない小中一貫。交流事業が肝。ここがなければ形骸化する。
- ・小中だけでなく、小小連携も大事。宿泊学習、修学旅行など、2校合同で班活動のフィールドワーク。
- ・R2 文科大臣表彰を学園運営協議会が受賞した。普通は公民館が受賞するもの。意義深い受賞。
- ・R4～CS 充実期。「日の里カリキュラム」の全職員での見直しに取り組んでいる。9年間を通じた「日の里カリキュラム」が定着し、スムーズに取り組んでいる反面、「やらされ感」「負担感」があるのも事実。そこを払拭したい。当事者意識を持たせるために、全職員での見直しが絶対必要だと考えた。行事等を担当した学年で見直しまで終わらせ、次年度につなげる。
- ・地域との連携が多いカリキュラムについては、担任教師の負担を軽減するために、ICS 推進本部が担う仕組みになっている。

日の里学園が文部科学大臣表彰

2月25日(木)に、日の里学園運営協議会が、「地域学校協働活動」推進で、文部科学大臣表彰を受けました。

日の里学園運営協議会とは、コミュニティ・スクール(CS)を進めている日の里学園の運営支援や、地域を元気にする活動等について協議を行う組織で、現在14人の委員で構成され、年間6回の協議会を行っています。

また、「地域学校協働活動」とは、社会総がかりで子どもたちの学びや成長を支えるために、地域の高齢者、大人、学生、保護者などの住民や、コミセン(公民館)、民間企業などが学校と連携・協働して実施する様々な活動のことです。



【宗像市公式 HP より】

学園コーディネーターとは

- ・市会計年度任用職員。立場は指導主事。事務局校に出勤。元小中学校校長が担う。地域とのつながりがもととあるので、仕事がやりやすい。
- ・現在の役割
→一部の教員が集まる組織と思われないよう、情報発信を積極的に行い、皆に当事者意識を持たせる。校長会への助言や支援も行う。
- ・地域コーディネーターとの違い
→提供する情報の中身が違う。「教育課程をつなぐ役」という意味では同じだが、学園コーディネーターは、地域の要望などを教育課程に落とし込めるのが強み。現場に即した具体的なアドバイスできる。
- ・小中一貫教育の土台があったので、コミュニティ・スクールにもスムーズに移行できた。学園コーディネーターがハブとなって、うまく調整できている。

日の里学園コーディネーターとして

- ・校務会議 毎月1回ペース(30分) 主幹部会→教頭部会→校長部会の順番で内容を決めた後実施。
- ・学園運営協議会 年6回 14人の委員 地域→学校の議題は教育支援部 学校→地域の議題は地域貢献部 一緒に取り組む議題は協働部 で話し合う。
- ・突然地域からのイベント開催のボランティア要請がある場合、学園コーディネーターが地域学校協働活動推進員とのハブとなって調整していく。
- ・「日の里カリキュラム」一覧表は地域活性と福祉防災が核。発達段階に応じているかどうか、どことつながるカリキュラムか、を一目瞭然で分かるように作っている。
- ・地域からの要請をカリキュラム化していく。「探究的な学びになるか?」という視点で、調整、相談しながら進める役割が学園コーディネーター。持続可能な教育課程へ。事前の打ち合わせ、やった後の見取りなどを大切にしている。
- ・「カリキュラム」実施の組織(推進本部)をつくっている。小学校では34年担当56年担当でそれぞれの小学校から人を出してもらう。34年西小、56年東小とかすると、34年担当は西小も東小も見る。
- ・自分でやったカリキュラムを自分で責任をもって見直す。次の担任に渡す。という意図で、「日の里カリキュラム検討会」を実施。全教職員が集まって、その趣旨について学園の校長から話をしてもらう。それを受けて、次期、内容、時数などを検討していく。
- ・地域、保護者への広報、啓発活動も学園コーディネーターの大事な仕事。

○質疑応答

質問者	質問内容	回答
次長	Q.導入にあたって、行政サイドとの調整はどのように行われたか?	A.「教育の町宗像」とずっと謳ってきている。行政サイドとベクトルは揃っていた。どちらかというと、学校とのベクトルをどう揃えるか、というところ。学校の意識改革に時間がかかった。行政サイドとは特になし。
次長	Q.プロジェクトチームみたいなものがあったのか?準備段階の教育委員会の体制は?	A.準備段階でマスコミに漏れてしまって、学校からも地域からも反発があった。内々で大学と連携したプロジェクトチームをつくっていた。すべてのコミュニティセンターを訪問し、説明して回った。かなり難航した。

教育長	Q.平成18年に小中一貫教育のスタート。かなり早い。いろんな抵抗があっただろう。そこまでして進めていこうとされた理由は？	A.導入当初から「小中一貫教育全国サミット」に関わっている、PDCA サイクルの一部に組み込んだ。全国に連れて行って発表させることで、その価値を実感させる。初期の校務会議は4時間くらいかかっていた。(合同)遠足一つでも、話し合いにかなり時間がかかる。教育委員会が細かい会議にもすべて参加するようにして、情報共有を密にした。そういう苦労を経て、現在、それぞれの学園の特色がある小中一貫教育がなされている。9年間を通じて子供を育てるというコンセプトは統一。当時、大変な苦労があって導入されたので、この灯をとざさないように繋げていきたい。子どもたちも育ってきている。管理職同士の仲が良いのも小中一貫教育の副次的効果。
委員	Q.7つの学園のうち、新しい施設をつくった学園があるか？施設分離型の場合、兼務教員の働き方の工夫は？	A.玄海学園の一部は新しく施設をつくった。大島学園は義務教育学校で、もともと施設一体型。兼務教員は、公用車を使って移動。距離的な問題で、兼務教員をやっている学園も、やっていない学園もある。中学校の施設で小学生が学期に1回授業を受けるという学園もある。施設分離型の学園は、今後、施設一体型にする予定はない。
事務局	Q.小学生が中学生に抱く憧れ、中一ギャップの解消、いじめ、暴力行為の数、など小中一貫教育の効果として表れている数値があれば教えてほしい。	A.学力の伸び、学習意欲の向上が成果。不登校は近隣市町村の中でもともと少ないが、現在も少ない。市独自で手厚い支援も行っている。出身小学校との緊密な連携、情報共有も。中一ギャップに起因する不登校はあまりない、という第二期終わりのデータがある。
	Q.課題をもつ子供たちへの支援には福祉側の支援も必要。同和人権教育の土台が、行政との連携がうまくいくポイントだったのでは？	A.SSW も学園単位で雇用。研修も、情報交換会も。なんでも学園単位で行う。こうすることで、小中間の情報共有がうまくいっている。

次長	Q.運営協議会の立ち上げにあたり、どのように学校との調整を行ったのか？	A.立ち上げ期が大変な苦勞。当時、小学校と中学校の指導方針など隔たりが大きかった。地域の子供を地域で育てる、という意識がなかった。中学校の一番良い教員を兼務教員にすると、小学校の先生が喜ぶ。子どもも喜ぶ。良い印象を受ける。地域の義務教育を、地域の小中学校で担う。地域が一番喜ぶこと。最初は反発もあるが、最終的には納得してもらえる。 小中一貫があったから、運営協議会がうまくいっている。時間管理、議題の整理をしっかりと行っている。会議で時間を奪わないように。
事務局	Q.デメリットは	A.現在、うまくいっている分、ある程度パッケージ化されている感がある。当事者意識がなくなり、PDCAサイクルが機能しづらくなる。いかに当事者意識をもたせるかが喫緊の課題。歴史を知らないから、すべてが当たり前になってしまう。
委員	Q.学校運営協議会を3校から1校にするときのアドバイス	A. 地域の情報も運営協議会に出してもらおう。「子供たちを育てるのは、地域も同じなんだ。」という意識を皆でもつ。学園だけでなく、地域も、子どもを育てるために何ができるかを考えてくれている。コミュニティスクールの意識をもって、地域も学校も何ができるか？を考えている。すべてをお客さんにしない。地域も教育の主体者になってもらうことが大事。

○日の里中学校訪問

・日の里学園小中一貫コミュニティ・スクールの歩み

○日の里学園の概要

(1) 目指す姿

- ・地域を愛し、自分で考え 自分で行動する子どもの育成
- ・クリエイト、コミュニケーション、チャレンジの3C を学園全体の合言葉に、同じ教育目標、指導計画で、「つなぐ」「つみ上げる」「そろえる」を3つの柱にして取り組んでいる。

(2) 日の里スタイル(3つの柱)←ポイントは、教師の一体感・共通課題意識の醸成

① 日の里カリキュラム(9年間統一の生活科、総合の一覧)

- ・日の里カリキュラムの作り方→RVPDCA サイクルで毎年改善。
- ・H31年度から作成がスタート。導入期は、2年間で実践しながら作成していった。
- ・夏祭りやコミセンのイベントを盛り上げる方法を考える、総合的な学習の時間のカリキュラムなどもある。学園の教育目標が地域にも浸透。子どもが運営にもかかわる地域イベントが増加。子ども自身が主体的に取り組める場が設定できている。

② 交流活動(小中交流、小小交流)

・遠足や運動会の組体操、宿泊学習、修学旅行、クリーン作戦、9年生を送る会など。計画的に実施している行事に交流活動を組み込む。異年齢集団での活動で憧れを育むこともねらいの一つ。

③ 兼務教員

・音楽や体育の教員が小学校の授業を担当する。小学校の教員が中学校数学や英語の授業の参加。メールのやり取りや事前の打ち合わせで授業内容を確認。

(3) 小中一貫のシステム

① 職員の意識の一貫【学園職員会議(4月はじめ)】【学園分掌・学年部会(年3回)】

【学園授業研(年2回)】【夏季学園研修会(2日)】

② 学園の円滑運営

【校務会議(毎月1回 30分・校長、教頭、主幹、研究主任、兼務教員、学園CO、市教委)】

③ 学校評価【学園運営協議会(年6回・共通項目評価、地域との協働重視)】

質疑応答

質問者	質問内容	回答
委員	Q.校務会議の議題は主幹部→教頭部→校長部で同じ。それぞれ判断が覆ってしまった場合、どう対応しているか？	A. 判断が覆ることも当然ある。主幹部には人材育成の役割もあるので、判断が覆ってもそれが学びになるという考え。運営サイドの意識化にもつながる。主幹部や教頭部でしっかり揉んでいるので、校務会議自体は30分で終わる。当日までにほとんど話し合いが終わっている状態。校務会議の後の、自然発生的な校長同士、教頭同士の話し合いも大切な時間。
	Q.働き方改革との関連。どう時間を生み出しているか。	A.小学校は昨年度から休憩時間を30分と15分に分ける取組を実施。中学校も掃除を最後に回した。時制の工夫で対応。また、学園で共通の共有ドライブがある。クラウド上でデータのやり取り。どこに行ってもすぐタブレットが使える環境で効率化。
教育長	Q.「7年生」となっているが、入学式、卒業式などの節目はどうなっているか？	A. 義務教育学校ではないので、小学校・中学校、それぞれで入学式卒業式がある。お互いの式典にそれぞれの学校の管理職が参加するという連携はある。
	Q.CS の3部会のうち「地域貢献部」の取組が難しそうな印象。地域の行事に学校が協力する際、土日の地域行事に教員を参加させることの工夫は？	A.生徒会の公約に「地域に貢献する」を挙げる生徒が多い。「地域の子どもは地域で育ててください」と運営協議会で願います。教員は参加しない。ボランティアに子どもが参加する場合、実行委員会に子どもが参加する、というシステム。地域の中で子どもたちを育てるという意識が根付いてきている。 地域のボランティアに子どもたちを参加させる。地域の方は〇つけボランティアにきてくれる。失敗させても良いから子どもたちに任せよう、とやってくれる。学園運営協議会コミュニティセンターの事務局長(元教員の方で地域の核となる方)が「任せてください」と言ってくれている。土日の地域行事に教員が参加しなくても良いように、地域の方にも説明してくれる。

委員	Q.時制をそろえる工夫を具体的に教えてほしい。	A.兼務教員が移動をしやすくするため、小学校の時程をそろえている。小学校は働き方改革のため、水曜日は全学年5時間授業、14:20下校。それ以外は15:30下校。
委員	Q.学園運営協議会のメンバーは？	A. 14名。福教大の教授、コミュニティセンターの会長、事務局長、地域学校共同推進員、小の地域代表、PTA 会長、校長
委員	Q. 小中の連携が難しそう。どう工夫していけば良いか？小小連携からスタートして小中連携に進んだ方が良いなどアドバイスがあるか。	A.小小連携と小中連携、どちらも一緒にスタートさせても問題ない。ただ、問題の肝は実行委員会の持ち方。どうやって情報共有するか、打ち合わせをやっていくか。
次長	Q.学校評価は「学園」で行うのか？	A.その通り。「学園」として実施。
委員	Q.小中連携の活動の場合、2小は同日に実施しているか？また、一つの小学校とだけ連携した行事はあるか？	A. 日程をそろえているし、必ず両校と連携している。組体操指導などは、同じ日に中学校から2小学校(母校)を訪問する。学園クリーン作戦は、5～9年生は9年生がリーダーとなって学園外の掃除。これも中学生は出身小学校の児童と同じ班になる形。縦割りが約50班(1班20人)できる。
委員	Q.小学校区ごとにライバル意識がある。小小合同の行事をすると、交流が深まったり中 1ギャップが解消されたりするだろうか？	A.中1ギャップはかなりなくなる印象。他小の児童・中学校の先生と顔見知りなので、不安を払拭できる。同じ目標で取り組むと、お互いの小学校の良さが伝わっていくチャンス。小中一貫教育をすることで、両地区の関係が深まっていく。地域や学校が混ざる組織を学校運営協議会の中につくっていくと、同じ目標のもとに2つの地区で一緒に取り組んでいく良さが生まれる。

○事前質問に対する回答

小中一貫教育先進地視察に関する質問事項

No	質問先	質問者	質問内容	回答
1	宗像市 教委	町役場 総務課	小中一貫教育制度を導入するにあたって、時間をかけたところや重要視したところ、ほかの導入自治体と違うところが聞ければと思います。	組織づくり ・校務会議 →管理職の意識をどう変えるか、を大切にしている。 ・教育予算が他市に比べて多いと聞く。
2	宗像市 教委	小学校 PTA	モデル校の選定理由があれば知りたいです。	・施設一体型の大島学園 ・小学校同士の距離が近い日の里学園
3	宗像市 教委	事務局	市民への情報提供の内容と方法は？	・じわじわ広げていく。広報誌、PTAの会合。モデル校の取り組み。保護者にもわかりやすく良い部分を強調して伝える。
4	日の里 中学校 日の里 西小学校 日の里 東小学校	事務局	小中一貫教育に関する研修や意識下的方法・内容は？	・4月に全職員での学園職員会議。授業研修等もすべて学園全体で実施。夏休み中には1日半～2日間にわたって全職員で研修(生徒指導や生徒支援など、テーマを設定) ・4月の職員会議の前に、新しく赴任した教員向けに教頭から説明を行う。
5	日の里 西小学校 日の里 東小学校	小学校 長	小中一貫教育のメリットは理解できました。一方、小中一貫教育を推進していく中で、課題が見えてきたということはありませんか。その課題解決に向けて、修正を加えたことなどがあったら教えてください。	・夏季合同研修会で、カリキュラムを持ち寄り、日の里カリキュラムの作成に向けて綿密に話し合いを続けた。 ・職員の入れ替わりがあり、カリキュラムをこなすだけになりがちである。その意義を伝え続けなければならないと感じた。カリキュラムの検討委員会を実施し、該当職員で見直す時間をとった。 ・日の里祭り→小6で学習。おどりの参加者が減少していることを課題として与えてもらい、学校全体で課題解決に向けた取組を考えていった。

6	日の里 西小学校 日の里 東小学校	教 育 委 員 会 職 員	分離型での総合的な学習や行事について ① カリキュラム上の取り扱い：同一の内容化それとも独自性を持たせているか。 ② それぞれの学校独自での実施か合同での実施か、あるいは内容によって分けておられるか。 ③ 分離型の場合の中期(5～7年)の、5・6年と7年のつながりについて、工夫されておられるところがあればお聞きしたいです。	・兼務教員の役割が非常に大きい。それぞれの学校から1名ずつ。 小→中 進学した児童が困っていないか。見取る。中→小 専門性を生かした授業。中学校での学び方を小学校でも教えてもらえる。 ・お互いに授業を通して、子どもたちの様子を見ることができる。それぞれの学校に子どもたちの様子・情報を伝える役割も。
---	----------------------------	---------------------	--	--